

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	25	18	9	<p>お子さんの状態像に合わせた部屋の割り振りを考えている。</p> <p>コーナーを設定して、子どもたちの活動動線を考えて空間の使い方を工夫している。</p> <p>環境が整理されている。</p> <p>環境整備や見直しを日々行っている。</p> <p>環境調整には工夫をしている。</p> <p>空間を上下にも使ったり、廊下なども使ったりしていた</p> <p>集団の部屋をパーティションで区切って活用している。</p> <p>職員の位置</p> <p>必要な部屋を確保するためにパーティションなどを利用</p> <p>部屋を区切って個別ブースを作れるようにしている。</p> <p>物の配置、収納がしやすいよう整えられている。</p>	<p>教材の置き場が少なめである。</p> <p>子供の人数。</p> <p>定員に対し療育室が狭い。</p> <p>定員を減らす。</p> <p>定員を減らす。</p> <p>毎日通園室は狭いと思います。</p>	<p>・使用しやすいように工夫しているが、限られたスペースであり、まだ十分とは言えない。随時している工夫は引き続き行い、また共有できる工夫は集約していきたい。</p>
	② 職員の配置数は適切であるか	19	29	4	<p>イレギュラーなって行事等があるときには、職員を増やして対応している。</p> <p>きちんと言葉にして伝え、声を掛け合い連携をとるようにしている。</p> <p>コミュニケーションや病気の子どもや不測の状況での他部署からのサポートがある。</p> <p>緊急時などはクラス担任以外の職員に応援を頼んでいる。</p> <p>職員個々人が精一杯頑張っている。</p> <p>職員同士で声をかけあうこと。</p> <p>数だけでなく職種や経験年数によるバランスは大切。</p> <p>体制のとりがたなど、よく考えている。</p> <p>不足しているときは、他の部署の職員がヘルプに入る。</p>	<p>きめ細やかな目配り、心配り、見守りができず、ヒヤリハットはもう既に事故となる場合がある。</p> <p>経験ある職員の増加と、離職者が減るような育成プラン。</p> <p>子どもの人数に対する大人の数を増やす。</p> <p>子どもの人数を減らすことでより丁寧に関わることができ</p> <p>る。</p> <p>子供の安全を守れない。</p> <p>子供の人数に対して大人が足りない。</p> <p>出張が多くなりすぎないように配慮して頂けると良い。</p> <p>職員の急な休みに対する職員の配置の余裕がない。</p> <p>大人1人に対する子どもの人数を減らしたい。</p> <p>定員に対し大人の数が見合っていない。こちら手も足りないと感じているが、保護者からも大人が足りないという意見が多く出ている。</p>	<p>・昨年度の自己評価結果にも記したが、ここ数年をかけて毎日通園室の定員について検討を行ってきた。次年度からは定員数を減らす予定。大人と子どもの動線を検討し、さらに生活しやすい場にしたい。</p>
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	33	10	9	<p>いろんなスタッフが知恵を絞って考えている。</p> <p>ホワイトボードでスケジュールが確認できるように。</p> <p>子どもに合わせてスケジュールなどを用意している。</p> <p>十分とはいかないが、視覚的支援取り入れている。</p>	<p>クラスのコミュニケーションツールの不備が多い。肢体不自由のお子さんが使いやすい玄関ではない。</p> <p>クラスや担当者によって差がある。</p> <p>一人一人のイスの高さと状態をこまめに確認する。</p> <p>個人に合わせたスケジュールや視覚的支援、サインについても職員間で意義、使い方等共有する機会を持っていきたい。</p> <p>肢体不自由のあるお子さんの保護者は、抱っこをして靴を履き替え4階まで来るのはかなりの負担があると思う。バギーのまま入館できるとより良いがそれができない。人によってはキャスター付きの座位保持装置を1階に用意し移動してもらっているが、実施できているお子さんは1名のみである。キャスター付きのものの数が限られているのと、置き場の問題で実施できていないことが現状である。</p> <p>部屋の表示(クラス名など)に文字だけでなく、シンボル等必要と考えている。</p> <p>幼児対象なので、完全バリアフリーになっていない。</p>	<p>・実践報告では現場の「構造化」の取組実践を共有した。合わせて、室や部・学園というそれぞれで、必要なものを配置するなどして、全園をあげて現場と事業所双方から環境整備や構造化についての取り組みを行なっている。ぜひ継続していきたい。</p> <p>移動補助具を必要とする子どもの過ごし方についてはまだ十分に着手できていない。検討をしていきたい。</p>

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	43	6	3	<p>教具など取り出しやすく配置されている。子供達の目線に、そして大人も触って見たいと思えるようにしている。</p> <p>床で過ごすお子さんの部屋は特に衛生面に気をつけている。</p> <p>清潔を心がけ、子どもにとって適切な環境を作ろうと努力している。</p> <p>掃除や換気に気をつけている。</p> <p>部屋、倉庫、棚などの整理整頓がなされていない。</p>	<p>園庭から入ってきたとき、砂が玄関にたくさん落ちている。</p> <p>教材の整備、子どもが使いたいものがすぐに使える状態を保てるように、整えていきたい。</p> <p>手洗い場が子どもにも使いにくい。</p> <p>職員が時間のない中清掃を行っているため、清掃時間をより確保するか清掃スタッフを増やすか。</p> <p>日々の整理整頓をする。またそのチェック機能を確実にする。</p> <p>療育室全体が食事スペースとして使われており、食事の片付けが丁寧にできていない所が気になる。子供たち野遊びのスペースが室内の一部でも確保できると、まとまりも出て掃除も丁寧にできるのではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材整備については、不備や不足の発見→職員で共有→修理や交換などの解決、という流れがよりスムーズになるとよいと考える。 ・清掃も環境整備の一環と考える。子どもたちに伝えるべき大切なものが含まれている。スタッフ3名も引き続き清掃業務に専従してもらおう。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	35	5	12	<p>1日の振り返りを行っている。</p> <p>関係スタッフと相談する。</p> <p>虐待、ストレスチェック等自己を振り返る機会が設けられている。</p> <p>室会などの場で共有するようにしている。</p> <p>日々のミーティングの他に、半期に一度、グループ療育の内容を丁寧に振り返る機会を設けている。</p>	<p>コンサルテーションをタイムリーにお願いできるとよい。</p> <p>一人一人の考え、意見を吸い上げる機能を構築すべきである。</p> <p>人事考課制度はここ数年実施されていない。</p> <p>全ての職員が、数値や具体的な項目でCとAが確認できるように、Pの部分で明確化されていると良いと思う。</p> <p>短時間だけ一緒に過ごした職員にも可能な限り振り返りに参加を促す。</p> <p>日々の療育を担当しているスタッフ間で、日常的な見直しが見えてこない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考課制度については、実施に向けた準備を行っている。他の社会福祉法人施設等の取り組みも参考にしながら、早急に再開したい。 ・各個人の業務遂行の改善については人事考課による見直しがあるとよいと考えているが、今年度は達成できなかった。現状に合った人事考課を検討している。ぜひ再開したい。 PDCAサイクルについてはまだ定着途上と考えている。それまでは振り返りができる習慣がもてるようになってよいと考えている。
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	40	3	9		<p>保護者からの意向に対して、適切な回答になっておらず、事業所の立場や考えの説明に終始している事が多い。</p> <p>保護者の意見は伺っているが改善に繋がっているとは感じられない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方へのタイムリーなフィードバックは大切だと考えている。また、担当者と管理職が情報共有しながら、保護者のニーズ（顕在化しているものも、まだ顕在化していないものも）を把握したい。
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	35	1	16	アンケートや参観感想等。		<ul style="list-style-type: none"> ・現在も公開を行なっているが、利用者によりわかりやすい掲示や伝達を心がけ、アピールを行なっていく。これらの取り組みは保護者の方への安心感にもつながると考える。
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	42	0	10			<p>高い評価を得られている項目ではあるが、今回このアンケートに未回答だったものの中には、この外部評価の必要性や有用性に対して疑問を持つ意見もあったのではないかと推測する。口頭での報告、閲覧の工夫については検討が必要である。</p>

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	47	2	3	契約職員の参加も認められている。 他の施設にはない量と質の研修を実施している。	研修の機会はあるが偏りがある。職員の意向に基づく機会の提供ではない事が多い。 実施内容の振り返り（職員が主体的に参加することができているか、学習の場となっているか）が必要。 職員研修は確保されているが、各々のレベルに合った適切なものによりすべき。 内容は充実していると思うが、日時の設定がタイトになっている。そのため、記録、翌日の療育の準備などの時間が確保されにくい。	・学園が計画的に実施している職員研修、また職員が有志で実施している研修の場のバックアップなど職員研修の充実を引き続き取り組んでいきたい。一方で研修の時間の捻出には課題がある。これは業務改善と表裏一体であると考え。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	45	1	6	各種評価の実施状況を確認できるように一覧を作成している。 最低、年に1回のアセスメントが確実に行われている。 声を掛け合い、評価の実施状況について確認する。 保護者との話し合いの時間の確保。	なかなか入らないこともあるので、担当者の意識を高めていく。	・学際的なチームアプローチの実現は、学園の理念として掲げているところである。担当者がアセスメントの依頼をタイムリーに行なえるようなシステム整備と、室や各職種レベルではそのマネジメントを滞りなく行えるよう工夫を考えていきたい。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	33	4	15	プロジェクトも立ち上げて、より高レベルのアセスメントをめざしている。 現在準備中のようなので、改善に向かっていていると思う。 新たなツールの検討、実施を行なっている。 適応行動のみではなく、子どもの発達特性を理解するためのアセスメントを行なっている。		・プロジェクトを立ち上げ、担当職員を始め、共通理解に基づいた取り組みができた1年だったと考える。さらにアセスメント力の向上のために、今年1年の積み重ねを振り返り、事業計画にしたうえで、次年度の展開を行いたい。 ・一般的な意味でのフォーマルツールの活用はできている。昨年度の自己評価においても指摘があったが、より深く一人ひとりの子ども達の行動理解をはかるべく、今年度は発達障害を中心としたアセスメント体制の構築についてプロジェクトを立ち上げた。次年度から本格的な実施を計画している。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	39	2	11		家族支援と地域支援の視点をもっと増やすべき。	・家族支援については相談支援センターとの連携をはかりつつ、児童発達支援センターとしての家族支援について職員が意見交換ができるような取り組みを充実させていきたい。定期的に行なわれる家族支援ケース会議や拡大サミットでの情報共有など、部や学園として計画的に実施していく。 地域支援・地域連携については、個別支援計画にどこまで記載するのかの整理を行なっていく。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	40	2	10	努力はしているが、本当に子どものためになっているかは分からない。 日々の振り返り。	職員の資質、理解の差をどうするか。	・園内研修、園外研修への派遣等、支援力の向上を行い、支援計画に沿った支援が行える機会を設けてきた。 ・発達支援年間計画を作成し、完成の目途が立った。クラス・グループそして各職員の個性や持ち味はいかしく、一定の発達支援の質を担保する基礎としていきたい。定期的な実践の振り返りをする際に労なく個別支援計画にアクセスしやすいようファイリングの工夫を行った。この工夫が有効だったかの検証は必要である。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	45	0	7	同グループの子どもの話しをする機会を作成時期には多くとっている。日々の振り返りを丁寧に実施している。 日々の計画と年間の計画を並行して立てている。	経験年数の少ない職員の意見を拾い上げることが課題。 親子グループ(午後)のミーティングは、曜日によって会議や全体の作業が多い曜日があり、とりにくいと感ずる。会議や作業をコンパクトにできるとよい。朝礼の効率化ができればその分別の会議に使える時間が増えると思う。	・発達支援プログラムをもとに作成をしている。作成時間については一定の時間を確保しているが、まだ十分ではない。その時間を、会議や作業の時間を設定を調整することで捻出できないか検討中である。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	39	4	9	季節の歌や絵本、教具の入れ替え等。 年間の計画を立てる中で、ステップアップについても意識できるようにしている。	新職員が多い中、プログラムにバラエティがない。また同職種でまとまる事で見かたは、偏る傾向がある。	・固定すべきプログラムと変更すべきプログラムがある。個々のスタッフに任せきりにならないように、発達支援プログラムが活用できるようにしていく。職員個人のもつプログラムには限りがある。複数の職員と組む、クラス担任のローテーションを通して、職員のプログラムのバリエーションを広げる機会としていきたい。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	48	0	4	基本的に全員に集団療育と個別療育の両方を提供している。		・子どもへの直接的な支援についても、そのご家族への学びの機会についても十分検討した上で子どもの発達に沿ったプログラムを提供している。だが出席率をみると、提供しているものの、療育の出席につながっていないこともある。ご家族の理解と協力を得られるかが課題である。アピールをしていきたい。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	48	1	3	朝礼、ノート。	確認や打ち合わせをする最低限の時間の確保が必要。 時間の確保が課題。	・限られた時間の中で工夫しながら効率よく実施できるよう行われている。ほかに工夫できる点はないかは引き続き模索していく。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	46	0	6	契約職員も含めた振り返りを行なっている。	時間が十分に確保できないことも多いため、確実に確保できるようにするべき。	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中で工夫しながら効率よく実施できるよう行われている。 有給休暇の取得義務、働き方改革等、限られた時間の中で工夫しながら引き続き行っていくよう、支援の振り返りや見直し、情報共有などができるように、会議時間の持ち方等、見直しを行っていく。 振り返り際の視点や手順などさらに洗練できる点はないか検討していきたい。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	48	0	4		記録はとっているが、支援の検証、改善までの話ができているかわからない。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の記録整備は達成できている。個別支援計画に基づいたものとなっているか、などの見直しについては一部必要である。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	45	1	6			<ul style="list-style-type: none"> 定期的なモニタリングは実施できている。それをもとに会議も実施されている。
関係機関や保護者との連携	㉑ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	36	1	15			<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、児童発達支援管理責任者である室長が中心に行なっていく現状の方法を継続していく。
	㉒ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	40	1	11		行っているが、不十分さを感じるので、もっと行うべき。	<ul style="list-style-type: none"> 職員の派遣などを通してネットワークは構築されている。連携についても実施されている。フットワーク軽く連携がとれるような関係性を拡充していきたい。
	㉓ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	36	0	16			<ul style="list-style-type: none"> 診療所があることで、一定の取り組みを行なうことができている。引き続き、診療所との協働体制のもと、他機関との連携も引き続き丁寧に行うことを推進していきたい。
	㉔ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	36	1	15			<ul style="list-style-type: none"> 診療所がある現在は一定の取り組みを行なうことができているはずだが、「わからない」と答えた職員も多数いる。診療所の意義の理解、医療等との連携の重要性の共有等は、引き続き行っていくことが必要だろう。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	44	0	8			・一定の連携を行なうことができていだろう。フォーマットのある書式によるものや電話、来園や訪問等、いろいろな方法を用いて、引き続き連携や引継ぎを充実させていながら、スムーズな移行を促し、子どもたちの過ごしにつなげていきたい。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	44	1	7	自治体が作成している就学支援シートの内容では足りない、時には、別途引継ぎ書類を作成している。積極的に引き継ぎの時間を設けている。	伝える内容の整理と移行先の状況を理解していくことも必要。	・一部職員を派遣して、連携し、助言することは取り組みとしてできている。一方で多くの職員が、情報共有するための取り組みはできていないので、検討を行っていく。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	35	7	10	どちらかと言えば、助言や研修を行っている側だと思われる。		・一部職員を派遣して、連携し、助言することは取り組みとしてできている。研修についても、年間計画等に基づいて、参加する機会を設けてきた。引き続き、外部機関への派遣や、研修への参加も行っていきたい。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	50	0	2	子供の家とのインテグレーション。毎日通園室で、週に一回インテグレーションを行っている。		・毎日通園室においては組織的な実現ができてい。今年度はその方法やありかたについての議論がすすめられているところである。よりよい方向を模索していく。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	34	7	11			・児童発達支援センターとして、参加可能な会議には積極的に参加している。参加した職員からの報告も受け、会議内容について共有できている。 ・「わからない」と記載した職員も多くいる。積極的な職員の関与や参加という点では、他業務とのバランスを見ながら参加を検討していくことに加え、会議内容の共有の仕方などには引き続き工夫を行っていきたい。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	49	0	3		共通理解を図っているものの、難しいことが多く、実践できるよう職員のスキルアップは望まれる。最近、この辺りは不足してきているように感じる。保護者との面談スキルなどの学びの場が必要。	・保護者と話をする機会としては個別療育が用意されており、その場で話ができる工夫が確保されている。必要に応じて個別面談なども機会として提供している。引き続き保護者の声に耳を傾けて、聞き取るためのスキルの獲得が必要である。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	⑳ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	43	1	8			・昨年度の自己評価でも指摘があり、今年度ペアレントトレーニングの実践を始めている。来年度は年間計画として実施していく。ゆくゆくはそれらの技術が広く職員に広まるようにしていきたい。
	㉑ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	40	1	11			利用開始時の重要事項説明や契約時には、丁寧に説明を行うようにしている。必要に応じて掲示物等での説明を行ったりにしている。
	㉒ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	49	0	3			・発達支援課程・発達支援年間計画・発達支援プログラムが整備された後に、それらを言語化するという意味合いも込めてパンフレットの作成に着手する予定である。
	㉓ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	48	0	4	毎回の療育の中で、必ず保護者と話をする時間を設けている。 様々なチャンネルを用意して対応をしている。	保護者からの相談に対してタイムリーに助言や支援ができていないこともある。	・個別療育や個別相談などの機会を用意できている。その機会を有効に活用するために、家族支援に対する意識やスキル、コミュニケーション技術についてはさらなる向上が求められている。
	㉔ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	45	2	5			父母の会は、学園とは異なる組織であるという一定の距離感を保ちつつも、運営がスムーズにいくように相談や提案などを行っている。これについては継続したい。
	㉕ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	45	0	7			・相談や申し入れがあった時点からの、対応の流れについては周知されてきている。よりタイムリーに対応できるように、各職員が家族支援の視点をさらに持てるようになることが望ましい。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	39	5	8		月のお便りが遅いという話が保護者から頻繁に話題に上がる。	・毎日通園室ではメール配信を試行しており、定着してきている。全てが確定し正式な通知になる前段階から、内容によっては早めのアナウンスを心がけていく。情報伝達の媒体については複数あり工夫してきている。これについては継続したい。
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	48	1	3		インテグレーションの記録について子どもの家から申し出があったにもかかわらず話が一向に進んでいない。	・マニュアルに基づいた取り組みを行っている。引き続き、時代の変化に応じてマニュアルを見直し、職員の意識の統一を図っていきたい。他機関との連携の際にも、マニュアルに基づいた個人情報の扱いを徹底して行っていけるような取り組みが必要。
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	49	0	3		不十分 外国籍の保護者との日々のフィードバックの際の工夫が少ない。	・子どもとの意思疎通についてはコミュニケーションブックを始め、視覚支援を構築している。継続していきたい。 ・保護者との意思疎通や情報伝達についても、互いに齟齬が生じないようにメモやホワイトボードなどを利用している。多様な家族が増える中、その家族のスタイルに合わせながら進めていけるようにしていきたい。
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	45	0	7			・現在行なうことができている地域との交流の視点と取り組みを、引き続き継続していく。
非常時の対応	④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	49	1	2	グループなどで保護者の時間を設け、共有する機会を持っている。		・マニュアル等については、閲覧可能資料として公開している。各種訓練も定期的に行うことができている。
	④⑫ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	52	0	0	様々な想定で訓練を行うようにし、訓練後は、委員が振り返りをおこなっている。		・定期的な防災訓練は実施されている。年間を通じ、工夫した訓練が実施できている。災害時のことを念頭にサーバーについてはクラウド化の進行中である。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	改善内容又は改善目標
④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	50	0	2		もう少し力を入れても良いか。	・診療所を中心に状況把握が行われており、今の体制の継続実施を実現していく。組織全体で同じ情報を共有するための工夫も引き続き行っていく。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	50	0	2			・継続的に、学園として、命を守るための対応の一つとして重視して取り組んできている。組織全体で、同じ情報を持つことができるように日々のルーティンワークを整えており、引き続き行っていく。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	29	11	12		最近では実施されていない。 全員での共有が課題。	・定期的にヒヤリハットを学園で共有する取り組みを実施していきたい。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	43	2	7		表面的な理念の伝達に留まらず、自分たちの立場における虐待リスクを考える場が必要。	・チェックリストについては定期的に実施し面談を実施した。また仮想事例を通しグループワークも実施した。具体的なシチュエーションを想定しながら全職員で虐待防止についての知識を共有していきたい。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	25	5	22	身体拘束はない。環境調整を行う。職員間、保護者で共通認識を持つ。		・引き続き、座位保持装置や補装具を使用している場合の個別支援計画への記載を行っていく。